

豊かな農地を守るために ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物※） の侵入・定着を防ぎましょう

※外来生物法で指定された、生態系や農林水産業に被害を及ぼす海外起源の生物。栽培・移動等は許可が必要。

ナガエツルノゲイトウ（ヒュ科）

学名：*Alternanthera philoxeroides* 長柄蔓野鶴頭

- 南米原産の多年草（国内の系統は種子をつけない）。
- 水草で河川や池で大群落となり、水面をマット状に覆う。
- 茎は千切れやすく、節や根から活発に再生。拡散しやすい。
- 水陸両生なので、畔や畠地にも侵入。耐塩性も高い。
- 関東以西の河川、水路、水田、畦畔などに侵入相次ぐ。



夏～秋に細い柄の先に球状の白い花をつける



↑ 茎断片から萌芽
根断片から再生→

農業被害の例

水利施設



水路を閉塞し、
取水・排水の障害に。

水田



除草剤効きにくく
防除困難。

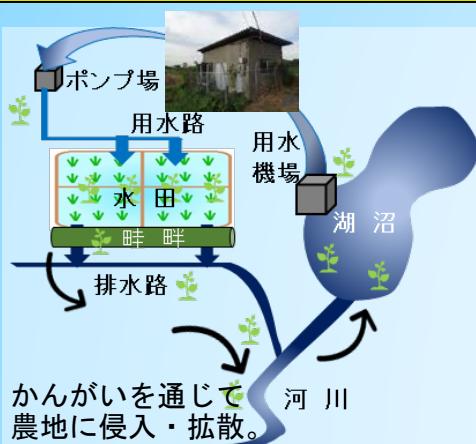


繁茂すると
収穫不能に。

畠地



農地への侵入経路と拡散様式



給水栓付近から定着。
畔塗りで畦畔に断片
が埋め込まれる。→



農機等に付着した
断片は他の農地に
移動しやすい。
洪水や河川の氾濫
によっても拡散。

ナガエツルノゲイトウの見分け方

花がない場合

葉は対生

葉の先はややとがる 茎の中心は空洞
(ストロー状)



茎はなめらかでざらつかない 節からよく分枝する

節に短い毛



花がある場合

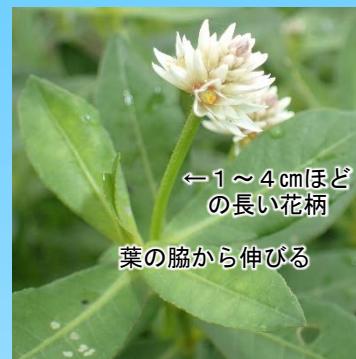
小さな花が集まった球状花

長めの花柄がある

花柄は葉の脇から伸びる



球状花の直径は
1~1.5cmほど



←1~4cmほど
の長い花柄

葉の脇から伸びる

水田や畦畔などにみられる間違えやすい植物



- 球状花は葉の脇にくっつく
 - 茎に毛がありざらつく
 - 葉に目立つ鋸歯がある
 - 花は球状でなく平たい
- 花のない時期は見分けが困難

- 葉の先は丸い
 - 葉は互生（交互につく）
 - 花は黄色
- 葉は3小葉
 - 葉に白い紋
 - 球状花の直径2cm

～ナガエツルノゲイトウの防除とまん延の防ぎ方～

ナガエツルノゲイトウの侵入が報告されている地域（環境省ウェブサイト※1などで紹介）では、農地に侵入・定着させないために、水利施設や水路、給水栓まわりなどをこまめに点検し早期発見に努めます。

※1 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-06.html>

もし農地周辺でナガエツルノゲイトウが見つかったら（具体的な防除・対策例）

水田内

- 水稻用除草剤（初期剤や初中期剤）の体系処理で防除します。とくに給水栓まわりや畔際の防除を徹底します。
まん延ほ場では後期剤の使用と水稻刈跡に茎葉処理剤（グリホサートなど）の散布が効果的です（降霜期まで）。
- 河川など取水源に定着している地区では、**給水栓口にネット等をとりつけ**、かんがい用水経由での侵入を防止します※2。
- 循環かんがい地区では、特に代かきや田植え時の落水時に**水尻にザル等を置いて**茎断片の流出を防止します。

※2回収したナガエツルノゲイトウは水気を切り、ゴミ袋に入れ固く口を結び、焼却処分してください（詳しくは地方環境事務所等にお問い合わせください）。



畦 畔

- 刈り払いによって断片が農地に侵入するおそれがあるので、定着が見られる畦畔では除草剤中心の管理を行います。**茎葉処理剤の効果的な散布時期は9月以降～降霜期までの期間**です。
- 農地も畦畔際の防除（茎葉処理剤の秋散布など）に務めます。

水路まわり

- 除草剤が使用できないので、**遮光率100%の耐水シート（推奨規格：#7000）を敷設**します（遮光率が99%以下だと完全に枯死せられません）。
- シートで覆っても完全枯死には長い時間（1年半から数年程度）かかるので、**耐久性のあるシート**を選んでください。
なお、外来種駆除活動には農林水産省の**多面的機能支払交付金**などが利用できます。市町村の担当窓口にご相談ください。
- また、ナガエツルノゲイトウの侵入が確認された農地とトラクターなどの農機を共用する場合、未侵入農地の作業を先にしたり、**侵入農地での作業後は泥落としなどの農機洗浄を徹底**してください。

農研機構では新たな侵入外来雑草の管理技術の研究・開発を実施しており、得られた知見はウェブサイト上などで更新していきます。